

基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・心理学・教育学委員会合同
生物リズム分科会

第26期・第2回 議事要旨

日時：令和6年12月10日（火） 17時30分～19時30分

場所：ZOOMによるオンライン会議

出席：深田委員、秋山委員、遠藤委員、尾崎委員、坂田委員、櫻井委員、志賀委員、
重吉委員、内匠委員、寺内委員、沼田委員、安尾委員、吉村委員

欠席：上田委員、佐竹委員、三島委員

（1）第26期における公開シンポジウムについて

第1回本分科会での公開シンポジウム開催の決定に従い、安尾委員（世話人）、遠藤委員、櫻井委員、重吉委員のワーキンググループで検討された今期第1回公開シンポジウム案が紹介され、これに基づいて議論を行った。その結果、今回は一般社会に広く興味を持たれる睡眠・冬眠と体内時計の進化を中心テーマとすることにした。ワーキンググループからは他に、体内時計の社会応用や、植物工場、畜産などへの展開の案も出たが、それらは次回以降のシンポジウム案として検討することとした。第1回公開シンポジウムの題名は「睡眠・冬眠と体内時計 ～生物リズムの進化から未来社会を考える～」に決定し、ワーキンググループから提案された内容は基礎的なものから今後の未来社会への応用という観点でまとめられていること、高校生にもわかりやすい内容であること、また登壇者のジェンダーバランスにも留意されていることを踏まえ、原案に沿った内容で進めることが確認された。シンポジウムの形式としては、日本学術会議講堂における対面形式とオンライン形式の併用によるハイブリッド開催の可能性を検討したが、土曜や日曜に開催する場合、日本学術会議講堂の使用予約が現時点では確定できないため、今回は、全国の一般市民・学生の参加が容易なオンライン形式で実施することに決定した。各演者の講演時間は20分とし、各々の質疑応答に5分を確保することに加え、全ての講演終了後に視聴者から講演全体に対する質疑応答の時間（20分）を確保し、視聴者の多くを占めるであろう一般市民と日本学術会議の双方向性の議論を深めるよう工夫することにした。また開催日時は、中高生や大学生が参加しやすい時期として、春休み期間の3月29日（土）の13時から15時50分とすることと、日本学術会議Zoomウェビナー方式（500名規模）を採用することなどを決定した。

（2）その他

日本学術会議総会における議論の内容が多くの変換会員にフィードバックされにくいという指摘に基づき、第26期第2回総会における重要案件に絞って深田委員長より紹介され、変換会員も常に学術会議ホームページの掲載内容に注視するよう要請された。